

## 平成30年度事業計画書

### 2-1 芳香族製品及びタール製品の市場調査に関する事業

#### 2-1-1 芳香族製品

- (1) 芳香族製品の生産等に関する統計調査並びにデータ開示  
昨年同様次の3種の統計調査を行い公表する。
  - ①「芳香族製品生産出荷統計月報」
  - ②「芳香族製品輸出入統計」
  - ③「芳香族製品並びに誘導品に関する統計(年報)」
- (2) 芳香族製品(海外動向)に関する講演会の開催  
会員相互の情報の共有化と、市場動向に関する啓蒙を図る。  
芳香族製品については、海外のアロマ動向に関する講演会を前年同様月1回程度行う。  
本年も昨年同様、会員の関心の高い中国・アジア・米国関係のテーマを実施する。  
また、講師については昨年同様、商社に依頼する。
- (3) 需要予測見通し作業の実施と公開  
「芳香族製品」については、以下の需要の見通し作業実施とその内容の公開。
  - ①B T X需要見通し：5年間、3月頃実施
  - ②改質生成油の需要見通し：5年間、2月頃実施
- (4) その他  
関係諸機関へのデータ開示と作業協力
  - ・経済産業省が実施するB T X、及びP X生産能力調査の作業協力(3月)
  - ・石油化学工業協会向けにアジア石化会議用の、需要実績の纏めと需要見通し(3月)
  - ・日本エネルギー学会誌のエネルギー特集記事の執筆協力(5月)

#### 2-1-2 タール製品

下記定例業務について事務局にて実施する。個別発生案件等計画外事項については都度関係会員協議の上対応する。

- (1) タール製品の生産等に関する統計調査並びにデータ開示  
例年同様次の3種の統計調査を行い公表する。
  - ①「タール製品生産出荷統計月報」
  - ②「タール製品輸出入統計」
  - ③「タール製品並びに関係品に関する統計(年報)」
- (2) その他  
関係諸機関へのデータ提供

### 2-2 芳香族工業及びタール工業の技術の向上に関する事業

- (1) 創立70周年記念日本芳香族工業会大会の開催  
期日 10月10日(水)、11日(木)、12日(金)  
場所 宮崎市民プラザ(宮崎市)  
大会行事は例年と同じく、テーマ討論会、講演会、技術・研究発表会、懇親会及び工場見学会とする。  
技術・研究発表会は、今年も幅広い分野から応募を募り、会員各社に積極的な発表を要請する。テーマ討論会は、「教育・運転支援」、「設備管理」、「環境・安全活動」、「省エネ」の中から3テーマを予定している。業界団体が主催する技術研究発表大会は例も少ないことから、広報誌やホームページにて積極的なPRを図っていく。
- (2) 技術委員会、テーマ講演会、及び外部講演会の開催  
定例技術委員会は年6回開催し、テーマ講演は4件で計画する。また、外部講演会や外部委員会等を1~2件企画する。  
テーマ講演、外部講演会の聴講者は技術委員会メンバーに限定せず、会員会社社員は参加

可能とし、技術委員、環境安全委員等を通じて会員各社内へのPRを図る。外部講演会は技術、製造分野に捉われず、幅広い分野で会員各社の要望に沿った講演を企画する。

### (3) 技術ミッションの派遣

会員各社の製造・操業部門及び企画・技術部門の若手および中堅エンジニアを対象に成長・発展著しいアジア化学産業の最新状況の視察(工場見学)と技術交流を目的とする技術ミッション派遣を今年も計画する。今年度は6月に台湾を訪問する予定で計画を進めている。訪問日程は6月18日(月)～6月22日(金)。訪問先は、麦寮(雲林県)の台塑グループ及び大林(高雄市)の台湾中油グループを予定している。参加者は、正会員会社12社から21名で、総勢25名の予定である。

## 2-3 工業標準化に関する事業

本年はJISのK-2435(ベンゼン、トルエン、キシレン)、並びにK-2438(ピリジン類)の定期見直しの年に該当している。利害関係者へのヒアリングを実施し、必要時は原案作成委員会を立上げ、改訂作業を行う。

## 2-4 芳香族工業及びタール工業の環境・保安・製品安全に関する事業

### (1) 環境安全委員会の充実

定例環境安全委員会を4回開催し、その内容をより充実させ、会員各社の情報交換の場として活用を図っていく。テーマ講演は3回を予定し、各社が対応を急ぐ緊急テーマ、興味・関心の高いテーマを中心に計画する。情報交流会(フリー討論会)は、各社の関心の高い案件について実施する。外部講演会等は1～2回企画し、各社に最新の情報などを提供する。また環境行政に係る情報及びそれに対する化学業界の対応等をタイムリーに入手し、委員会での迅速・適切な対応を取る。

### (2) 法規制等への対応

国内の改正労安法対応や、改正特化則対応、化審法による優先化学物質のリスク評価関連の情報などを関連業界団体との連携を中心に収集し、対応する。

### (3) 安全・防災への取組み

化学会社及び周辺関係会社における事故・災害多発の状況において、安全・防災問題への意識を高め、無事故・無災害に向けた活動を更に強化していく。

### (4) SDSの維持管理

SDS小委員会を適宜開催し、国内外の規制/基準・法制化等の動向の把握を実施する一方、最新情報によるSDSの維持管理も行う。本年はGHS関連のJIS(Z7252, Z7253)の改訂が行われる見込みであり、改定状況に留意するとともに、必要に応じてSDSへの反映を行う。

### (5) 国際海事機関(IMO; International Maritime Organization)への対応

2020年7月1日発効に向けたIMOの船型要件の見直しに関して、当会会員関係では、クレオソート輸送船が対象となっている。JAIAが事務局となって関係会員3社により対応を進めてきた。本年度は、IMO及び国内関連省庁へ申請を行い、従来船での輸送の認可を図っていく。

## 2-5 芳香族工業及びタール工業の広報宣伝に関する事業

ホームページと機関誌「アロマティックス」の両媒体を積極的に活用し広報宣伝活動を展開する。ホームページと機関誌は以下の方針の下、具体的展開は、広報委員会において逐次検討していく。

### (1) ホームページの活用

- ・見易さ、親しみやすさ、わかりやすさなどの向上に努め、会員のみならず一般の閲覧者への広報宣伝活動を展開する。一例として、Q&Aの拡充を図っていく。
- ・各種統計データ開示のスピードアップ化、ならびに各種統計データのDB化により閲覧者への利便性向上を図る。

(2)機関誌「アロマティックス」の充実

機関誌は専門技術情報誌であり、昭和24年1月発刊より読者から長期愛読され、社会に認知されている。今後は更に一般の読者層にもわかりやすく且つ広く役に立ち、社会に貢献するような情報誌を目指していく。また、2018年の新年号からアロマティックスは70周年を迎えるため、記念企画として本誌の振り返りを連載中である。